

日本学校教育相談学会

THE JAPANESE ASSOCIATION OF SCHOOL COUNSELING AND GUIDANCE

栃木県支部会報 2021.09.30

NO.35

- 理事長より
- 令和3年度栃木県支部総会報告
- カウンセリング特別講座I「子どもたちの語りから見えてくるもの」
講師：宇都宮少年鑑別所所長 福永 瑞恵 氏
- ～シリーズ～No.2 支部会員のキラリ！（1）・（2）
- 日本学校教育相談学会第33回総会・研究大会（兵庫大会）レポート
- 日本学校教育相談学会第34回総会・研究大会（栃木大会）第一次案内
- 栃木県支部事務局からのお知らせ

○ 理事長より

柴 一彌

丸1年延期された、今年の第33回兵庫大会（7月31日～8月1日）、第22回夏季ワークショップ（7月30日）は初めてのオンライン形式にもかかわらず、大きな混乱もなく無事に開催されました。

実は昨年10月（令和2年）の第1次案内では従来の対面型の開催を予定していました。しかしその後、2度目のコロナ感染緊急事態宣言が出される中、急遽昨年末（令和2年）にオンライン形式に切り替えることを決断し、今年3月（令和3年）の2次案内からはオンライン開催要項が会員には届いたことは皆様もご存知の事かと思えます。

兵庫県支部の実行委員会は今年に入ってから短い準備期間の中、さぞや目まぐるしい毎日の連続であったのではないかと容易に想像できます。兵庫県支部が一丸となって開催にこぎつけたことに心から敬意を表します。本当にお疲れ様でした。

さて、来年8月に予定されている私たち栃木県支部が主管する第34回研究大会（栃木大会）、第23回夏季ワークショップの開催がいよいよ現実のものとなってきました。

先ほどのオンライン兵庫大会総会では「来年の栃木大会（8月6日～7日）はコンパクトに2日間のオンライン」で実施するという案内をさせてもらい正式に認められました。開催要項の概要がまもなく本部から第1次案内で学会員の皆様には届くことになっています。

現下のコロナ感染状況、そして終息見通しがいまだ不透明であることを勘案すれば対面型の栃木大会開催には不安が残ります。半年前の3月の実行委員会三役会議、そして6月の支部総会でも対面型は難しいという認識は継続共有されてきました。

全国の教育現場で活動されている先生方をはじめとする多くの方々は、ゴールが見えないコロナ感染防止対策と意義ある学校生活の両立のために体を張って今も苦心されています。また、大会に参加したくても物理的に難しいと考えている会員のために少しでも負担軽減になるのであれば「オンライン開催」がふさわしいと考えたいです。

そこでさっそく兵庫大会の舞台裏をつぶさに見て、栃木大会に生かせる点をたくさん盗んでこようと、小川さん（実行委員会事務局長）、高松さん（支部事務局長）、私（実行委員長）の3人で神戸に出向いてきました（私立神戸野田高等学校がオペレーターセンター）。

時間を惜しまず、兵庫県支部理事長の向江先生（実行委員長）をはじめとするたくさんの方々から貴重なお話を伺うことができました。当日は兵庫県支部理事の方々や、実行委員のお手伝いスタッフがパソコンの前でどんなことをしているのかも間近に見ることができました。オンライン大会をなかなかイメージできていなかった私には「百聞は一見に如かず」とはこのことだと感動したくらいです。神戸野田高校情報科の全面バックアップ体制とICT専門の先生方のフットワークの良さが印象的でした。

栃木大会は二日間のコンパクト大会ですが、兵庫大会から得たものはそのまま生かし、「Zoomライブ」のほかにも視聴できる「オンデマンド」等を取り入れるなどのより参加しやすい工夫を凝らし、今後の実践に役立つヒントがたくさんもらえる中身にしていきたいと思います。皆様のお知恵とご協力、そして大会へのご参加をお待ちいたします。

○ 令和3年度栃木県支部総会報告

令和3年6月5日（土）午後1時から栃木県教育会館1階大ホールにおいて、令和3年度日本学校教育相談学会栃木県支部総会が開かれました。当日はカウンセリング特別講座に「子どもたちの語りから見えてくるもの～少年鑑別所の立場から」を演題に、宇都宮少年鑑別所所長福永瑞恵氏をお招きし講演も併せて行われました。

総会にあたり、柴一彌支部理事長は令和4年に栃木県で開催される日本学校教育相談学会について、その趣旨と思いを熱く語られた後、一人でも多くの会員の増加に願いを込めて「学校カウンセラーは教員になって5年以上、かつ学会に入って3年以上であれば、資格推薦ができます。一人でも多くの皆さんに参加していただき推薦できれば」と言葉を結びました。なお、総会の議事は下記のとおりです。

【議事】

- (1) 令和2年度事業報告
- (2) 令和2年度決算報告
- (3) 「会計監査」報告
- (4) 平成3年度事業報告案
- (5) 平成3年度予算案
- (6) その他

(文責 馬場 友治)

○ カウンセリング特別講座Ⅰ「子どもたちの語りから見えてくるもの」

講師：宇都宮少年鑑別所所長 福永 瑞恵 氏

令和3年6月5日（土）、栃木県教育会館大ホールにて、日本学校教育相談学会栃木県支部総会に引き続き、栃木県連合教育会・カウンセリング協会との共催によるカウンセリング特別講座Ⅰが開催されました。

最初に、少年鑑別所について、いかなる施設であり、どういうことをしているのか、などについて詳細な、しかも分かりやすいお話がありました。普段、教育現場で仕事をしている先生方にとっては目新しい内容であったかと思えます。

福永先生のお話の中に、「鑑別」は、「その少年の非行・犯罪に影響を及ぼした資質上・環境上の問題を明らかにし、その問題の改善のための適切な処遇指針を示すこと」とありました。カウンセリングにも通ずるものがあると思ったのは私だけでしょうか。カウンセリングでいうところの、「アセスメント」に当たるかと思いました。適切な「鑑別」がなければ、問題の改善のための適切な処遇につながらないということだと思えます。非常に重要な仕事だということとは言うまでもないことです。

具体的には、面接（動機・原因などを考えさせ、整理させる等）、その後、心理検査、その結果を踏まえ、鑑別方針の設定。その後、再び面接、心理検査などを実施し、判定会議へと進む形ようです。最終段階の退所にむけてはその後のいくつかの手続き、「審判」などを経なければならないのです。また、必要に応じて精神医学的検査・診断なども行われ、非常に重層的な支援をしているという印象を受けました。

最近の入所者の状況についての先生のお話から→本格的な押し込み強盗が増えている。そのような犯罪への加担のきっかけとして、「闇バイトへのアクセス」「先輩・友人からの『仕事』の誘い」などがあるということです。特殊詐欺なども思い浮かびますね。平凡な少年が重大な犯罪に簡単に引っ張り込まれてしまう構図。次のようなやりとりからも分かると思います。「何かいい仕事ないですか。」先輩「あるよ。グレーなやつだけ。 (本当は真っ黒)」しかも、逮捕されてもほとんど報酬ゼロのままだと言います。これじゃあ、本当は被害者じゃないか、とってしまいます。

先生のお話はその後、「非行少年の処遇について」に及び、具体的に少年院における矯正教育について触れられました。その中で先生の専門分野である、「面接」について3つの側面から話されました。

○相手の話を聞く

○相手を見る（観察する）

○相手との関係を作るといことです。

その他にも、大切ないくつかの点をあげてお話になりましたが、その中でも私が特に印象に残っているのが、

「面接技術の向上」……よりよい面接のために。

- 1 面接を見せてもらう。
- 2 面接を見てもらう。
- 3 面接を重ねる。というものです。学ぶことが多いお話だったなあ、と思われた方が多かったのではないかと思えます。

(文責 佐藤 幹雄)

～シリーズNo.2～

○ 支部会員のキラリ！（１） 栃木県支部理事 小柳 義一 先生

本学会栃木県支部の理事でいらっしゃる小柳先生は県立高校をご退職後、昨年まで県立高校のスクールカウンセラーとして務めていらっしゃった。同時に「お寺」という場でカウンセリングをなさっていたという特異な経歴の持ち主でもいらっしゃる。今回はそのあたりを中心にお話を伺った。

平成21年、茂木町の慶翁寺の津野住職さんより月1回で良いのでお寺でカウンセリングをしてもらえないだろうかという依頼があったとのこと。その住職さんが、「仏教寺としての本来のあり方の中に、悩みを受けとめて人の助けとなるというものがあるはず、坐禅だけでは人は救えない。」と語ったという。

ただ、人を救うのはカウンセリングだけではない、文学や音楽やら……。住職さん曰く、文化村塾の一環と考えると仰ったという。だから住職さん自ら打楽器奏者として演奏したりするということだ。

さて、お寺で行われるカウンセリングに登場するクライアントさんはどのような人たちなのであろうか。やはり高齢者が多いということであるが、「老いと病、家族関係」あるいは発達障害の事例もあるとのこと。本人？子ども？孫？等々、様々なケースがあるようであるが。

医療機関などヘリパーすることもあり、「つなぐ」役割が大きいと小柳先生。リパーがうまくいくケースが少ないという。「関わり方」の相談も多いという。家族との？或いは他人との？親族との？、等々いろいろあるようである。守秘義務は固く守っており、住職さんへの報告義務もないとのこと。あと2～3年続けるつもりだと小柳先生。クライアントさんが、どういう問題で、いつやってくるか分からない。実に幅広く、予測不可能であり、いまでもまだ少し恐怖感があるという。毎回、緊張感を持ってその場に臨んでいるのであろうことは想像に難くない。その困難な場の中で豊富な経験と確かな知識をもとにクライアントに寄り添った確かなカウンセリングを行っている小柳先生に敬意を表したい。

学校の間とはまた違った難しさがあることは間違いないのだが、それ以上に大切なことは、ともすれば視点が狭くなりがちな学校の間への関わり方をより多様な視点で捉えられるようになる可能性があるのではないかということ筆者は考える。さまざまな高齢者の、さまざまな生き方、考え方、その中には或いは、偏見に凝り固まったものの見方をしてしまう方や、社会の中で疎外感を感じている方などもいらっしゃるのではないか。

そのような人たちを理解しようとするのも我々の教育相談・カウンセリングの力量を高める一助になるのではないかと筆者は考えるのだが。なぜなら、子どもの不登校問題、或いは進学問題に意外に影響を与えている祖父母の存在を感じる事が少なくないからだ。しかし、実際にカウンセリングの場で祖父母とお会いすることは稀である。

学校以外の場、保護者・子どもの祖父母という役割とは違う立場で会えることは貴重であると思う。最後に、お寺にて年4回「相談だより」を発行し、この6月に一冊にまとめ、発行されたものを拝見したが、小柳先生の豊富な経験と深い考察に裏付けられた内容に脱帽である。誌面の都合上、紹介できないのが残念である。

(文責 佐藤 幹雄)

○ 支部会員のキラリ！（２） 栃木県ロールプレイング研究会 山崎 匡 会長

支部会員で栃木県ロールプレイング研究会の会長をしている山崎匡先生。元は学校の教員をしていましたが、早期退職をして大学院で学び、臨床心理士や公認心理師の資格を取得し、現在栃木県内のスクールカウンセラー等をおられます。

山崎先生のロールプレイングとの出会いは、今から35年前に遡ります。当時、教職員が受講するカウンセリングの講座で千葉の大木みわ先生のロールプレイングに出会ったことがきっかけです。そこで山崎先生は卵から蛇のロールを演じ、舞台の上で5、6人の受講生とロールプレイングの初体験をしました。舞台の上では「思ったこと」「感じたこと」など、どんなことを言ってもいいという魅力に取りつかれ、「やってみたら楽しかった」と実感し、その

時の感覚が今も体に染みついています。

山崎先生は、本人曰く、「控えめな人間関係」で生きてきたそうですが、舞台の上ではいろいろな言葉が自然に湧き出てきて、「大胆な人間関係」も演じることができ、例えば不良中学生の役をやってもそれなりの言葉がどんどん出てきたそうです。次の年には、故金子賢先生が監督、丸山隆先生が補助の自我の講座に参加。その楽しさを更に味わい、今後ロールプレイングを深く学んで、学校教育に生かしていくことを決心しました。

すぐに金子先生が主宰している栃木県ロールプレイング研究会に入会・活動し、金子先生が亡くなられた後、後継者となり現在に至っております。30年以上継続してロールプレイングを実践しております。その間には、ロールプレイングの研究で内留もされ、まさに人生をロールプレイングで生きていると言っても過言ではないくらい、筋金入りのロールプレイヤーであり、監督であります。「人間はロールの集合、玉ねぎの皮のようにロールを剥ぐと何も無い」「1回のロールプレイングでカウンセリングの何回分かができる時がある」「スクールカウンセラーとしてケースの話もロールの目で見ている」など、ロールプレイングに魅了された山崎先生の言葉です。

栃木県ロールプレイング研究会は、月1回土曜日の午後、県教育会館で開催しております。ぜひ、参加して、山崎先生の味わった楽しさを実感してみてください。お試し参加もあります。

(文責 伊澤 裕)

○ 日本学校教育相談学会第33回総会・研究大会（兵庫大会）レポート

7月29日より8月1日まで、柴理事長、高松事務局長の3人で兵庫大会のリモートのセンターを実際に視察してきました。会場になっているのは長田区の私立野田高校のパソコン教室です。長田区といえば26年前阪神淡路大震災で、甚大な被害を被ったところです。実際最寄り駅の山陽本線高取駅から高校に向かう途中、テレビで何回も放映された橋脚の根元がポッキリ折れた高速道路の下を通りました。26年経って周りの風景はわかりましたが、被災者の心の傷はまだ癒えないかなと思いました。

高校に到着すると、実行委員長の向江先生が迎えてくれました。野田高校は向江先生が以前勤務した学校で、校長が全面的にバックアップしてくれたそうです。パソコン教室の提供、インターネットの無料使用、パソコン教室のパソコン無料貸与をしてくれたそうです。その他にも非会員の情報教員が出勤して、想定外の緊急事態に対処できるようにしていました。

ここまでの話を聞いて、栃木大会では課題が山積していると思いました。栃木大会のリモートセンターは、場所は教育会館です。インターネットは教育会館のシステムを使用できるのですが容量等今後その点を詰めていかなければなりません。因みに兵庫大会の参加者は250名だそうです。参加者人数を心配していたそうですが、実際には多くなったそうです。参加費が通常の半額で、交通費や宿泊費を考えれば安価に参加できます。

また、リモートセンターでは20台近いパソコンを使用していましたが、全部野田高校の物です。兵庫大会のようにどこかの高校のパソコン教室を借りられればよいのですが・・・。当日の突発的なトラブルにどう対処していくのか等々の新たな問題も想定しておかねばなりません。

研究発表一日目は、Zoomの部屋が6室ありました。そこには共同ホストが2名ずつ付いていました。みな兵庫支部の人達でした。従来ですと、座長1名、世話係2名で座長が発表に対してコメント、お世話係が司会、発表時間の管理などを行っていました。ここでは座長は、支部以外の人にも頼んでいました。

栃木大会まであと1年ですが、喫緊の課題として、研究に対してのコメントができ、なおかつZoomの対応に長けていなければなりません。実行委員会もZoomを使ったリモート会議を開催し、Zoomに慣れなければなりませんと思いました。

7月30日は、夏期ワークショップでした。主管は学会研修委員会なので、兵庫支部の実行委員会はありません。しかし、リモートセンターでは、スタッフが慌ただしく仕事をしていました。後から話を聞いたのですが、次の日の発表者と打ち合わせをしていたそうです。すると問題が発生し、画面が途中で切れてしまいました。担当者はその解決策を必死になって模索していました。野田高校のインターネット回線は盤石ですが、相手の回線が脆弱なのではないかと言っていました。野田高校の情報教育担当の教員が、相手の方がWi-Fiでは不安定になるのでLANケーブルを使用した方が良くとアドバイスをしていました。ソフト面だけでなく、ハード面も熟知している人材が必要だと思いました。研究発表2日目には、ある部会では予期せぬ画像が一瞬流れたそうです。そのような突発的なアクシデントにも対応しなければなりませんと思いました。



最終日に兵庫支部理事長と実行委員会事務局長のお二人に話を伺いました。1年延期になっても、対面方式の研究大会を考えてましたが、コロナが収束せず、急遽リモートになったそうです。現地には野田高校パソコン教室という恵まれた環境がありました。栃木大会は最初からリモートで実施すると決定していますが、様々な課題も想定されます。これからそれらの課題を一つ一つ解決していかなければなりません。支部会員の皆様のご支援ご協力をお願いします。今回の視察は、「百聞は一見にしかず」の如く大変に参考になりました。

(文責 小川 正人)

○ 日本学校教育相談学会第34回総会・研究大会（栃木大会）第一次案内(案)

大会テーマ『災禍に向き合い、支えあい、つないできた学校教育相談活動を児童生徒の心の砦としてさらに充実させよう』
 コロナ禍にあつて、今子供たちを取り巻く教育と暮らしには様々な課題が押し寄せています。進路への不安、家庭や学校での人間関係の悩み、それに由来する心の疾患から起こる10代の自死の増加は喫緊の課題です。また親の勤務形態の変化が家庭内不和・貧困をさらに押し上げ、孤立化していたヤングケアラーの存在を表面化させています。足かけ2年にも及ぶ様々な我慢を強いられてきた子供たち、彼らの学習・進路、健康、心理・社会面の成長に及ぼす影響も見逃せません。兵庫大会からさらに1年間かけて実践したこと、コロナの時代にできたこと、その成果を総括し、この先を俯瞰し、災禍の有無に左右されない教育実践の方向性が見出せるような大会になればと思います。
 栃木大会はオンラインとオンデマンド方式を組み合わせ、夏季ワークショップも含めて2日間の日程でコンパクトに開催したいと思います。ぜひ多くの方々に参加していただけるようご案内申し上げます。

一般社団法人 日本学校教育相談学会会長 春日井敏之
 第34回総会・研究大会実行委員会委員長 柴 一彌

- 1 主催 一般社団法人 日本学校教育相談学会
- 2 主管 日本学校教育相談学会栃木県支部
- 3 後援 (申請予定) 文部科学省 栃木県教育委員会 宇都宮市教育委員会 栃木県小学校長会 栃木県中学校長会 栃木県高等学校長会 (一財) 栃木県連合教育会 (公財) 教育公務員弘済会栃木支部
- 4 期日 令和4年(2022年)8月6日(土)・7日(日)
- 5 実行委員会本部 栃木県教育会館内2F「(一財) 栃木県連合教育会相談部」
- 6 日程 ●8月6日(土)…オンライン

8:30	9:00	12:00	13:00	16:00	16:30	18:30
受付	夏季ワークショップ	休憩	夏季ワークショップ	休憩	全国支部代表者会議	

●8月7日(日)…オンライン

8:30	9:00	10:30	10:40	11:20	12:30	18:30
受付	開会行事・総会	文科省講演(40分)	実践事例研究発表	自主シンポジウム(ズーム生配信)		

● 期間限定オンデマンド*記念講演 講師 浄土宗光琳寺住職 井上 広法氏こうほう 演題「未定」

記念講演(60分)	学会賞・小泉英二賞受賞者講演(120分)	自主シンポジウム(事前収録120分)
-----------	----------------------	--------------------

7 大会に関するお問い合わせ先

栃木大会実行委員会事務局長 小川 正人 E-mail : jasc.tochigi@gmail.com

○ 栃木県支部事務局からのお知らせ

今年度後半の事業計画についてお知らせします。すでにご案内した通り、コロナ感染防止の観点から、一部の研修形態を対面形式からリモート（Zoom）に変更して実施することになりました。どうぞご理解の上、多くの会員の皆様のご参加を御願いたします。

※Zoomで実施する研修への参加希望は県支部へメールでお知らせください。
希望する方へは、受付け後招待メールを送ります。

開催期日	事業名	会場	備考
10月9日(土) 13:30~16:00	【第11回 とちぎ教育相談カフェ】 「インシデントプロセス法を学ぶ」 講師:布川裕美氏	Zoom	申し込みは、締め切りました。
10月23日(土) 10:00~12:00	【第38回 支部研究発表】 コメンテーター:伊澤 裕氏 (学会スーパーバイザー)	Zoom	発表者・参加者募集 締め切り10月9日(土)
11月20日(土) 13:30~16:00	【第39回 支部研究発表】 コメンテーター:築瀬のり子氏 (学会スーパーバイザー)	Zoom	発表者・参加者募集 締め切り11月6日(土)
11月28日(日) 13:30~16:00	【カウンセリング特別講座II】 演題「カウンセリング・学ぶこと・教えること」 講師:橋本 幸晴氏 (キャリアカウンセリング協会特別講師)	栃木県教育会館 大ホール	参加費無料 (事前申し込み不要)
12月18日(土) 13:30~16:00	【第12回 とちぎ教育相談カフェ】 「インシデントプロセス法を使う事例研究」 講師:布川 裕美氏	Zoom	提供者・参加者募集 締め切り12月5日(日) 参加費 1,000円
令和4年1月 8日(土)・9日(日)	【日本学校教育相談学会・第32回中央研修会】 詳細については本部から案内が届きます	Zoom	
2月5日(土) 13:00~16:00	【精神医学特別講座】 演題「起立性調節障害～樹生だけが治せない病気～」 講師:八木 正樹氏 (医療法人蒼間病院小児科長)	栃木県教育会館 大ホール	参加費無料 (事前申し込み不要)
2月26日(土) 10:30~16:00	【冬季特別研修会】 演題「子ども達のゲーム・SNSの世界」 講師:橋本 屋	栃木県教育会館 小ホール	要申し込み 参加費2,000円

日本学校教育相談学会栃木県支部

〒320-0066 宇都宮市駒生1-1-6 教育会館栃木県連合教育会相談部内

日本学校教育相談学会栃木県支部事務局 高松千恵子・佐藤 佳子

TEL 028-627-5682 FAX 028-627-5682

E-Mail : jasc.tochigi@gmail.com

ホームページ : <http://t-soudan.sakura.ne.jp/index.html>

(会員の部屋パスワード tb-jascg3123)

発行責任者: 柴 一彌 (理事長)

広報担当者: 馬場 友治・佐藤 幹雄・松本 直美・

平峰 孝二・伊澤 裕・小川 正人